

# 保育者養成校における保育実践力を高めるためのプログラム

— キッズフェスタへの取り組みを通して —

## The Program to raise the Childcare Practical Skills of a Training School for Nursery Teachers

— Plan and Management for “Kids Festival” —

次世代教育学部こども発達学科

後藤 由佳

GOTO, Yuka

Department of Early Childhood Development

Faculty of Education for Future Generations

**要旨：**本稿は、筆者が所属していた愛媛県の環太平洋大学短期大学部で、専門科目での学びを通して取り組む「キッズフェスタ」の内容と成果を報告することを目的とした。短期大学部は隣接する附属幼稚園と元気の泉保育園をはじめ、地域の幼稚園、保育園との教育連携の強化に力を入れ、学生の保育実践力を高めることを目的に、平成15年度より年に一度キッズフェスタを開催している。キッズフェスタは、地元宇和島市近郊の幼稚園・保育園および附属幼稚園・保育園児を対象とし、学生が主体となり、歌や合奏、オペレッタ、ブラックライトシアター、劇等に取り組んでいる。充実した保育実践の継続と教育環境によって、保育・幼児教育の専門家としての豊かな知識とより確かな実践力の養成に繋がるものと考えられた。今後は、教育と研究の観点から研究を積み重ね、四年制大学における保育者養成機関にとって、保育実践力を高めるさらなる有効なプログラムを具体的に構築・検討の必要性がある。

**キーワード：**キッズフェスタ、保育内容（表現）、保育実践力、保育者養成

### 1. 問題と目的

近年、保育ニーズが高度化多様化し、保育者養成機関にはより高い資質や技量を有する幼稚園教諭や保育士を養成することが求められている。このような保育者を養成する課程の中で、教育実践は最も重要な位置を占めているといっても過言ではない。そのため、保育者養成校において、保育実践力を高めるより有効なプログラムを具体的に構築・検討することが課題となっている。

本研究対象である環太平洋大学短期大学部は、1966年にその前身である愛媛女子短期大学として開学した。当時は食物栄養と保育の実践を主とした教育を担っていたが、現在は子どもから大人まで人間に関わる様々な領域の教員が集まり、教育と研究を行っている。子ども教育専攻の使命は、実社会で通用する保育士と幼稚園教諭を養成し、豊かな感受性と教養、基礎

的専門知識をあわせ持つ女性の育成を目指すことである。

そこで本稿は、筆者が所属していた愛媛県の環太平洋大学短期大学部で、専門科目での学びを通して取り組む「キッズフェスタ」の内容と成果を報告することを目的とする。キッズフェスタは、平成15年度より年に一度開催し、平成30年度（2018）で第16回目を迎えた。

### 2. 方法

キッズフェスタの指導に当たってきた筆者が、平成18（2006）年11月から平成29（2017）年3月までの10年5ヶ月間、短期大学部で取り組んできた「キッズフェスタ」の成果を基に、今回は、平成28（2016）年12月に開催した第14回キッズフェスタを中心に報告する。

企画・運営学生：

短期大学部人間発達学科子ども教育専攻

女子学生91名（1年生46名、2年生45名）

日時：

平成28年12月14日（水）10：00～11：30

場所：宇和島市立南予文化会館

参加園数：11園（宇和島市近郊の幼稚園・

保育園及び認定こども園）

参加園児数：370名

### 3. 内容

愛媛県宇和島市にある環太平洋大学短期大学部は、西日本で数少ない同敷地内に幼稚園と保育園を有しており、授業での学びと現場での保育実践を並行して追求できる環境が整っている（写真1～2）。なかでも隣接する附属幼稚園と元気の泉保育園をはじめ、地域の幼稚園、保育園との教育連携の強化に力を入れ、学生の保育実践力を高めることを目的に、平成15年度より年に一度キッズフェスタを開催している。キッズフェスタは、地元宇和島市近郊の幼稚園・保育園および附属幼稚園・保育園児を対象とし、学生が主体と

なり、歌や合奏、オペレッタ、ブラックライトシアター、劇等に取り組んでいる（写真3～7）。

学生主体の取り組みのねらいには、①保育に関連する様々な問題や課題に関して広い視野から意識をもち、その問題解決のための対応や判断方法を検討しながら自発的に課題に取り組む姿勢を身につけ、子どもや保護者を支援するための技術や方法を習得すること、②子どもに楽しんでもらえる行事を企画、実践していく中で、一人一人の持つ能力や個性を認め、他者とともに育ち合うことの大切さを学びとることが挙げられる。さらに、2年生が1年生と協働的に運営を行



写真3 ポスター



写真1 環太平洋大学短期大学部



写真4 第14回プログラム



写真2 附属幼稚園・元気の泉保育園



写真5 オペレッタ「おやゆび姫」



写真6 1・2年歌エンディング



写真7 会場の子どもと学生

い、地域の子どもたちに学生が保育者として貢献する場としても位置づけている。すなわち、短期大学部での専門科目を通して学修した成果を、学生一人一人が発揮する場とし、2年生が1年生と協働的に運営を行い、地域の子どもたちに学生が保育者として貢献する場として「キッズフェスタ」を位置づけている。

#### 4. アンケート・レポート結果からみる実践効果

本節ではキッズフェスタの実践結果を基にプログラムの●い運営学生と、参加幼稚園・保育園の意識の変化や様子を確認する。

学生の意識の変化を、プログラム終了後の学生レポートより一部紹介する。

- ・キッズフェスタを企画・運営してみて、本番を迎えるまでに、発表練習だけではなく影の下準備がとても大切だと思った。リハーサルのみならず、何度も会場に足を運び、下見をし、業者の方との打ち合わせ。細かい所まで練って、連携を図っていくことの重要性を知ることができた。決して一人で作り上げるものではなく、多くの方々の協力があってこそ、キッズフェスタを開催できる。企画・運営で一番大

事なのは、見通しをもって、計画的に準備をすることだと分かった。時間がない中でも、時間を作る。みんなで作り上げるうえで、みんなで時間を合わせて、練習して、互いに高め合うことで、完成度の高いものになると感じた。(N.H.)

- ・2年間取り組んだキッズフェスタは、みんなたくさん苦勞して、泣けるくらい本当に大変なことばかりでした。だけど最後までみんなで頑張ることができて、子どもたちや先生、保護者にも喜んでもらえ、今度は子どもたちの日々の努力を保護者に伝えられるような発表会を作りあげたいと思います。(A.T.)
- ・キッズフェスタを企画しはじめたのは夏で、最初は去年よりも良いものをつくろう、みんなでやろう！と思い、意気込んでいましたが、最初から最後まで同じ気持ちで準備できていたかという点、そうではないと思います。練習時間も全くと言っていい程、有効活用できていなかったし、ラストスパートでの追上げはすごくきつかったです。「また次できる」を繰り返して、「時間がない」にいつのまにか変わっていました。(2年生が)1年生と協力して創り上げたキッズフェスタですが、終わってしまうと、どこか寂しいような気が少しだけあります。夜遅くまで残り、何度も南予文化会館を訪れて打合せをしてくれた総リーダーのTをはじめ、HとM、また各班のリーダーに感謝したいです。そして、装飾を一から考え、あれだけ壮大な飾りつけを考案、指示してくれたYとHにも感謝したいと思います。(S.T.)

子どもの意見や様子を、参加幼稚園・保育園の先生方のアンケート結果より一部紹介する。

- ・「おやゆび姫」がかわいかった(5歳女児)。劇「3匹のこぶた」の会話がおもしろく、オオカミの動作もコミカルで印象的だったようだ。「あいたん夏祭り」では、実習に来ていた大好きな先生を見つけて、うれしかった(5歳男児)。(T保育園)
- ・実習生を見つけて名前を呼んだり、楽しい場面では大笑いしたり、一緒に歌ったりと、どの子どもも笑顔でした。降園後は、キッズフェスタの話題で盛りあがり、年下児に内容を話していました。(O保育園)

先生方の意見や感想を、参加幼稚園・保育園の先生方のアンケート結果より一部紹介する。

- ・幕間に1年生のみなさんが、季節の歌などをうたっ



ていたのが、ひと幕ごとに変化があり、子どもたちも飽きずに集中できよかったと思う。毎回、色々と工夫され、学生さんや指導の先生方の苦勞が偲べれます。キビキビとした動きや笑顔いっぱいの歌声など、子どもたちにも良い刺激となり、感動も大きかったようです。(T保育園)

・本園に来た実習生の頑張っている姿を見ることができ、嬉しかった。手作りのお土産がよかった。降園時に、お土産にもらった腕時計を身に付け、嬉しそうに保護者に見せていた姿から、楽しかったキッズフェスタが家庭まで繋がっていくよさを感じた。

(Bこども園)

・内容がとても良かったので、子ども達も保育士も夢中になって旅の一員になり楽しむことができた。着席して待つ間も手遊びなど工夫がされており、あっという間に時間が過ぎたようだった。手作りのお土産は、劇の内容からつながったものだったので、帰園してから、また話が盛り上がり、喜びもひとしおだった。学生さんの一生懸命な姿に感動しました。これからの現場での活躍に期待しております。(O保育園)

このような園との密接な連携と協力体制は、理論と実践を結びつける格好の場であり、充実した保育実践の継続と教育環境によって、保育・幼児教育の専門家としての豊かな知識とより確かな実践力の養成に繋がるものとする。

## 5. 考察

本稿では、環太平洋大学短期大学部での専門科目を通して、「キッズフェスタ」への取り組みを報告することを目的とした。短期大学部は、地域に送り出せる保育士・幼稚園教諭を養成し、実社会で通用する女性の育成をねらいとして教育を実践してきた。キッズフェスタへの取り組みが（保育現場で求められる保育実践力を習得する上で）その一役を担っていると考えられる。

今後の課題として、①保育者養成校の限られた修業年限の中で、保育実践力をより習得できるプログラムの展開、②様々な素材や教材等の特性の理解と活用及び作成のための技術を、より習得できるプログラムの展開、③四年制大学における保育者養成校での学びと、卒業後の保育現場での活用の検討、これら3点を考える。その成果を、教育と研究の観点から研究を

積み重ね、四年制大学における保育者養成機関にとって、保育実践力を高めるさらなる有効なプログラムを具体的に構築・検討し、子どもたちの健やかな成育環境づくりの支援につなげていきたいと考えている。

注：「第14回キッズフェスタ」は平成28年度県民総合文化祭優秀企画事業として愛媛県文化教会より助成を受け開催いたしました。なお本稿は、日本こども学会学術集会第15回子ども学会議（同志社女子大学：京都）のポスター発表に加筆、修正を加えたものである。筆者が総責任者を務めたプログラムである。

謝辞：10年間短期大学部でキッズフェスタを遂行するにあたり、皆様にご支援をいただき、感謝いたします。環太平洋大学短期大学部附属幼稚園、元気の泉保育園をはじめ、宇和島市の幼稚園・保育園そして学生たちの協力なしでは、キッズフェスタを10年間毎年継続して開催することができませんでした。ここに感謝の意を申し上げます。

## 引用・参考文献

- 1) 川村高弘・後藤由佳・岡部康成 (2011) 「保育専攻短期大学生の自己教育力と保育者効力感の関係」『愛媛女子短期大学』22, 25-33
- 2) 厚生労働省 (2017), 保育所保育指針, フレーベル館
- 3) 後藤由佳 (2015) 「保育者養成校における造形教育の実践報告－図画工作の授業を事例として－」『環太平洋大学短期大学部』27, 67-74
- 4) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2017), 幼保連携型認定こども園教育・保育要領, フレーベル館
- 5) 中田史子・後藤由佳 (2013) 「保育者養成校における自己教育力・保育者効力感を高めるためのプログラム－キッズフェスタへの取り組みを通して－」『環太平洋大学短期大学部』25, 93-101
- 6) 文部科学省 (2017), 幼稚園教育要領, フレーベル館